

平成24年度の  
生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと  
当面する課題について

平成24年12月13日  
社団法人 日本酪農乳業協会  
需給委員会 (第4回: 12月7日開催)

# 1. 地域別生乳生産量の動向

## 【生乳生産量予測の前提】

- ・都府県及び全国の予測値は、指定団体ブロック別の生乳生産量予測値を合算して算出。
- ・指定団体ブロック別の予測値は、過去の生乳生産量実績データの動向パターンに基づく、気温や乳牛頭数等を組み込んだ予測モデル (ARIMA モデル) による推計値を基本に算出。
- ・平成 24 年度の気温は、平年並で設定している。

表 1：平成 24 年度 地域別生乳生産量（見通し）

	全 国		北海道		都府県	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
4 月	649	103.3%	325	100.6%	324	106.1%
5 月	671	101.4%	340	101.0%	332	101.9%
6 月	642	102.1%	331	101.0%	311	103.4%
7 月	644	103.3%	338	102.3%	306	104.4%
8 月	630	102.5%	334	102.4%	296	102.6%
9 月	604	101.6%	318	101.6%	286	101.5%
10 月	628	101.3%	329	102.0%	299	100.4%
11 月	603	100.1%	314	101.1%	290	99.1%
12 月	632	99.8%	328	100.9%	304	98.6%
1 月	644	99.8%	335	101.0%	310	98.5%
2 月	592	96.3%	304	97.3%	287	95.3%
3 月	663	99.5%	338	100.9%	325	98.1%
第 1 四半期	1,963	102.3%	996	100.9%	966	103.7%
第 2 四半期	1,878	102.5%	989	102.1%	888	102.9%
第 3 四半期	1,863	100.4%	971	101.3%	892	99.4%
第 4 四半期	1,899	98.6%	977	99.8%	921	97.4%
上期	3,841	102.4%	1,986	101.5%	1,855	103.3%
下期	3,762	99.5%	1,948	100.6%	1,814	98.3%
年度計	7,602	100.9%	3,934	101.0%	3,669	100.8%
閏年修正後						
年度計	7,602	101.2%	3,934	101.3%	3,669	101.1%

## 概要

24 年度 10 月までの生乳生産量実績は、23 年度後半から引き続き、前年度を上回って推移した。今後は、全国では前年度と同程度かやや下回る程度で推移するものと見込まれる。

なお、23 年度が閏年であったことから、2 月は他の月に比べ約 3.4% 低い前年比となっている。

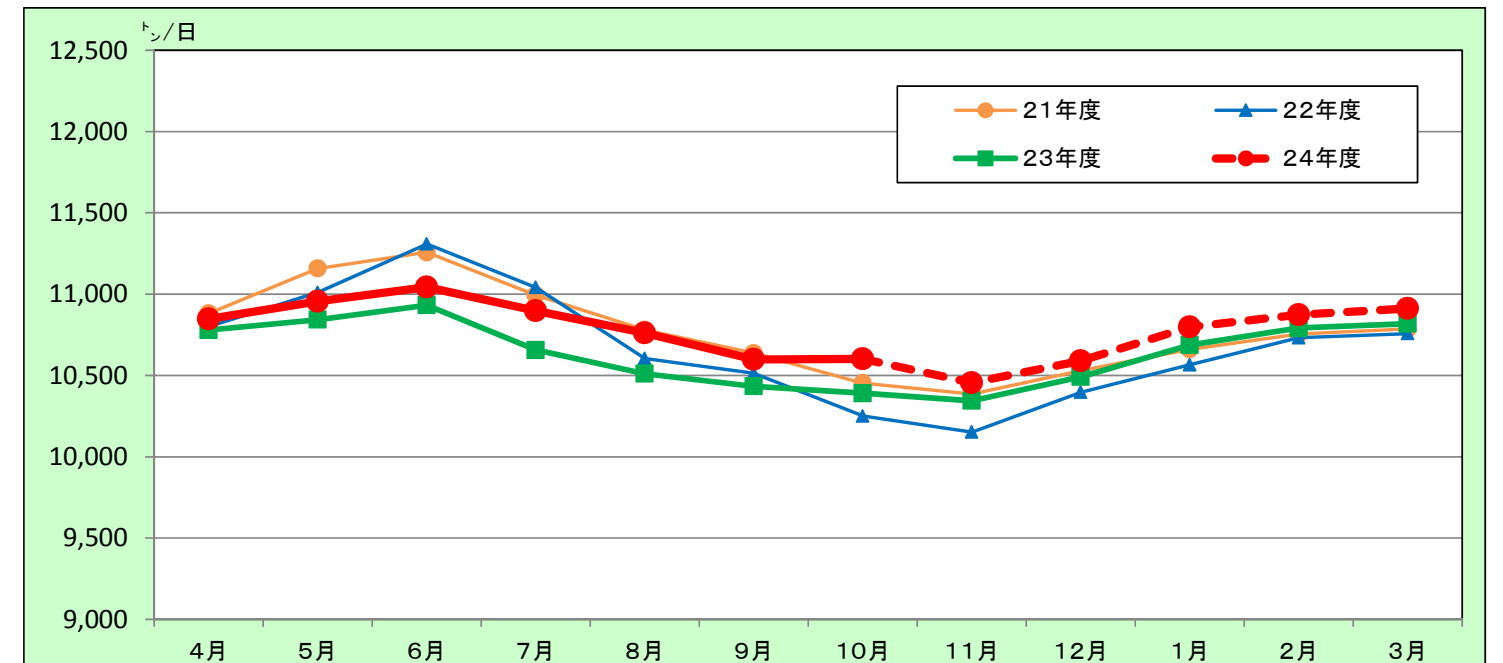
また、都府県における 4 月の前年比が大幅な増加を示しているのは、東日本大震災の影響によるものである。

## 【生乳生産量の見通し】

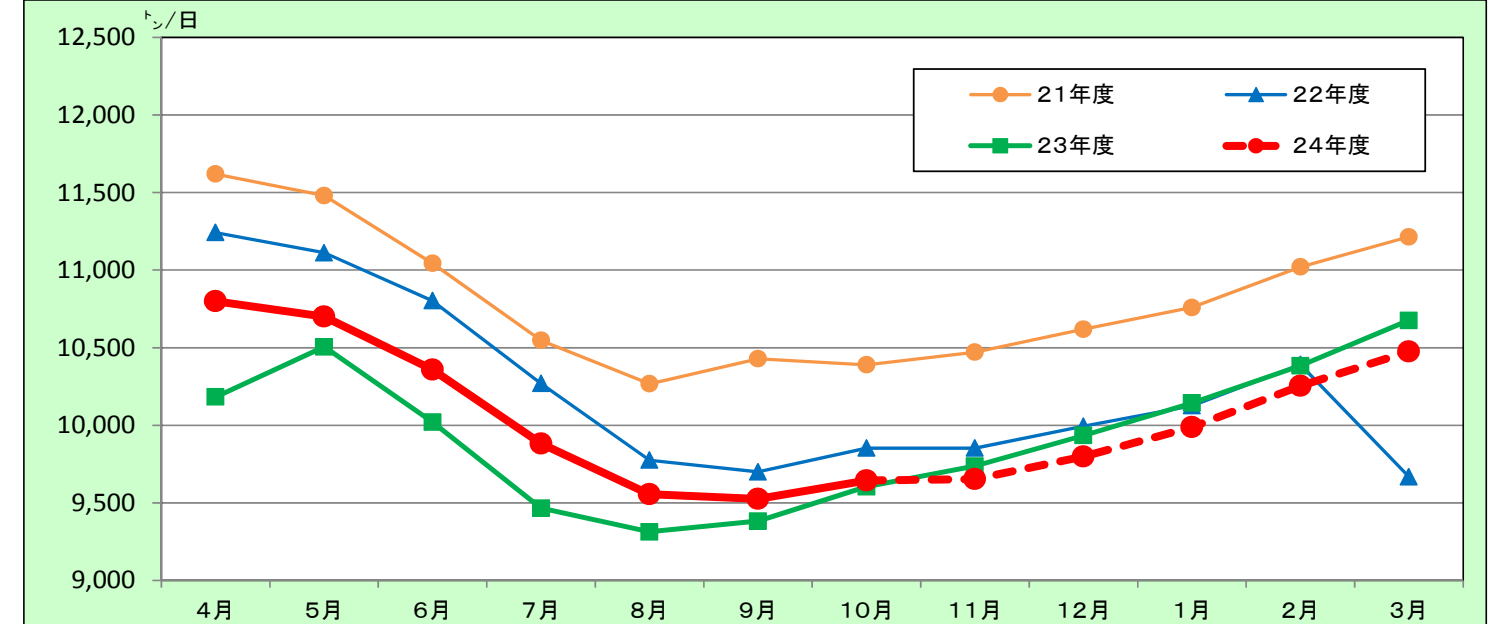
今後の生乳生産量については、北海道では引き続き前年度を上回って推移すると見込まれるものの、都府県においては前年度をやや下回ると見込まれることから、全国では前年度と同程度かやや下回る程度で推移するものと見込まれる。

結果、現時点での予測においては、24 年度における年度計では、北海道 3,934 千トン（前年比 101.0%）、都府県 3,669 千トン（前年比 100.8%）、全国 7,602 千トン（前年比 100.9%）と見込まれる。

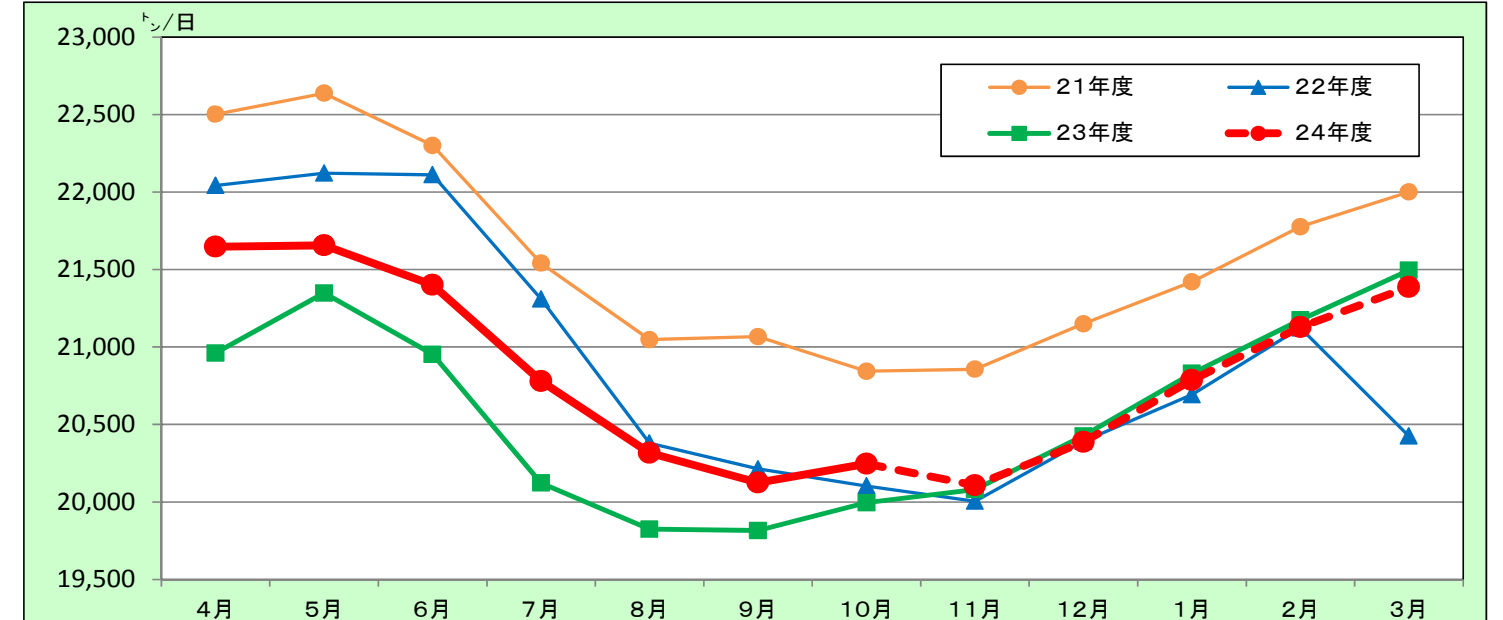
グラフ 1-1：北海道の生産量（日均量）



グラフ 1-2：都府県の生産量（日均量）



グラフ 1-3：全国の生産量（日均量）



## 2. 牛乳等生産量の動向

### 【牛乳等生産量予測の前提】

- ・各々の予測値は、過去の生産量実績データの動向パターンに基づく、気温や平日日数等を組み込んだ予測モデル(ARIMA モデル)による推計値を基本に算出。
- ・平成24年度の気温は、平年並で設定している。

表2：平成24年度 牛乳等生産量（見通し）

	牛乳類		牛乳		加工乳		成分調整牛乳		乳飲料		はっ酵乳	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
4月	394	98.2%	247	97.4%	13	71.1%	30	106.2%	103	102.7%	86	127.2%
5月	423	98.3%	264	97.8%	13	79.7%	32	96.5%	114	102.8%	89	124.1%
6月	422	97.8%	264	97.5%	11	71.1%	31	93.2%	116	103.6%	86	110.2%
7月	434	99.3%	263	100.3%	12	68.6%	33	93.8%	126	102.8%	86	112.7%
8月	420	99.2%	244	99.2%	11	69.3%	34	93.4%	130	104.6%	83	112.5%
9月	443	99.3%	274	100.9%	11	69.5%	32	93.3%	125	101.6%	84	110.7%
10月	444	101.5%	275	101.0%	12	77.4%	31	93.1%	126	108.3%	83	110.5%
11月	403	98.8%	258	99.7%	11	72.3%	28	92.0%	106	102.6%	77	107.5%
12月	381	98.6%	242	99.2%	11	70.1%	27	90.5%	101	104.1%	73	109.2%
1月	384	99.1%	246	99.5%	10	73.7%	28	93.2%	100	103.6%	76	104.2%
2月	365	96.4%	236	95.8%	10	73.0%	26	92.3%	92	102.9%	75	93.5%
3月	387	99.8%	242	99.7%	11	78.9%	29	96.5%	104	104.0%	85	99.0%
第1四半期	1,239	98.1%	775	97.6%	38	73.9%	93	98.3%	333	103.1%	261	120.1%
第2四半期	1,296	99.2%	782	100.2%	35	69.1%	99	93.5%	381	103.0%	253	112.0%
第3四半期	1,229	99.7%	775	100.0%	34	73.3%	86	91.9%	334	105.2%	233	109.1%
第4四半期	1,136	98.4%	724	98.3%	32	75.2%	84	94.1%	296	103.5%	236	98.8%
上期	2,536	98.7%	1,557	98.9%	72	71.5%	192	95.8%	714	103.1%	514	116.0%
下期	2,365	99.1%	1,499	99.2%	66	74.2%	170	93.0%	630	104.4%	469	103.6%
年度計	4,901	98.9%	3,056	99.0%	138	72.8%	362	94.4%	1,344	103.7%	983	109.7%
閏年修正後												
年度計	4,901	99.1%	3,056	99.3%	138	73.0%	362	94.7%	1,344	103.9%	983	110.1%

### 概要

最近における牛乳等の生産量実績は、牛乳及び乳飲料が比較的好調だったものの牛乳類全体では前年度をやや下回って推移した。直近の10月においては、例年に比べ気温が高かったこともあって前年度を上回る実績となったが、今後はこれまでと同様に前年度をやや下回る程度で推移するものと見込まれる。

はっ酵乳は今後も堅調な推移が見込まれる。

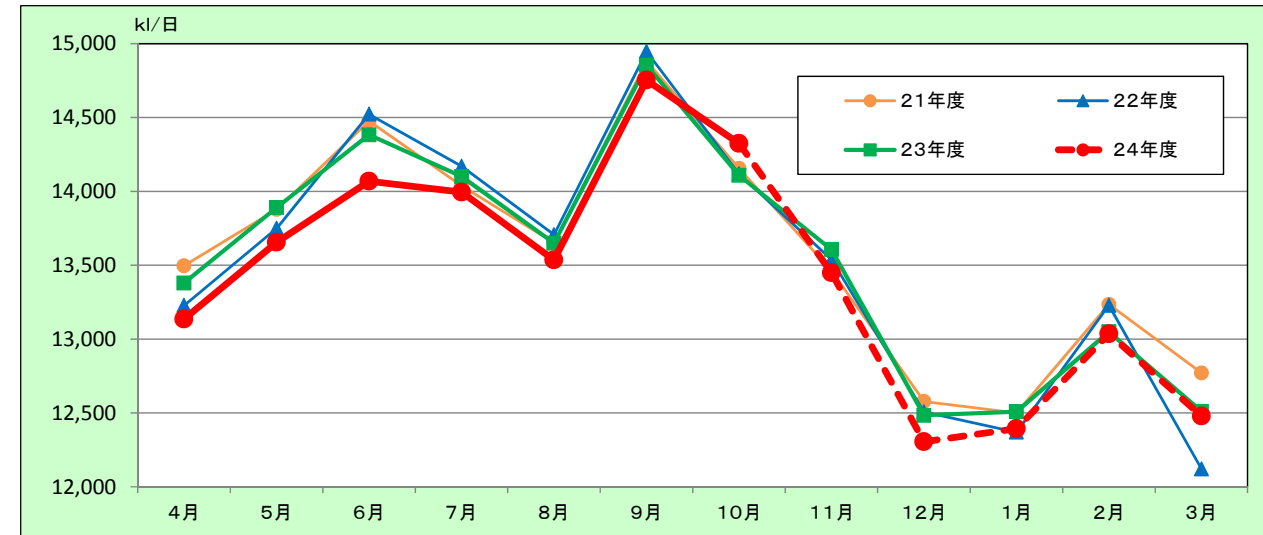
### 【牛乳等生産量の見通し】

今後の牛乳等の生産量（需要量）は、各種別とも、これまでと同様の傾向で推移するものと見込まれる。

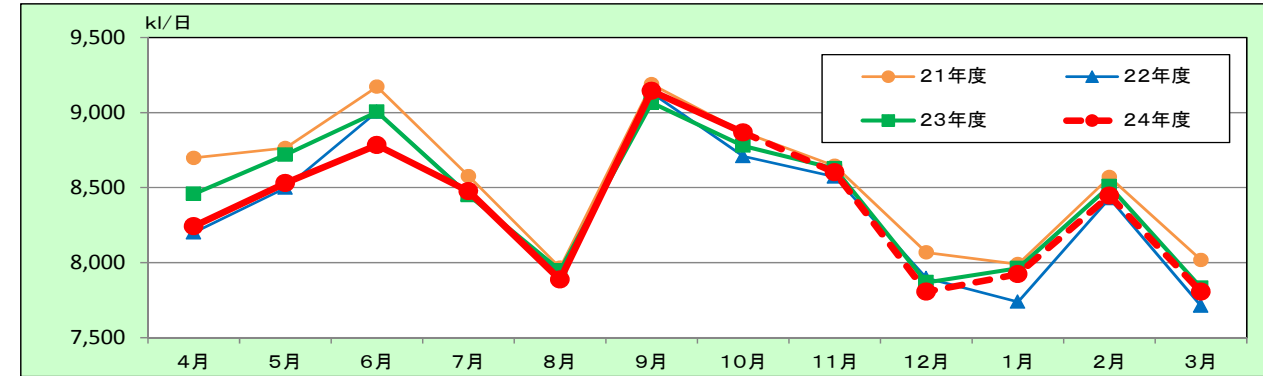
種類別にその傾向を見ると、「牛乳」は前年度をやや下回って推移するものと見込まれ、年度計では前年比99.0%、「加工乳」は大幅に前年度を下回って推移し、年度計では前年比72.8%、「成分調整牛乳」も前年度を下回って推移し、年度計では前年比94.4%、「乳飲料」は好調だった23年度を更に上回って推移し、年度計では103.7%、また、これら「牛乳」「加工乳」「成分調整牛乳」「乳飲料」を合算した牛乳類全体では、年度計で前年比98.9%と見込まれる。

なお、「はっ酵乳」については、今後も、伸び率はやや鈍化するものの、引き続き堅調に推移するものと見込まれ、年度計では、前年比109.7%と見込まれる。

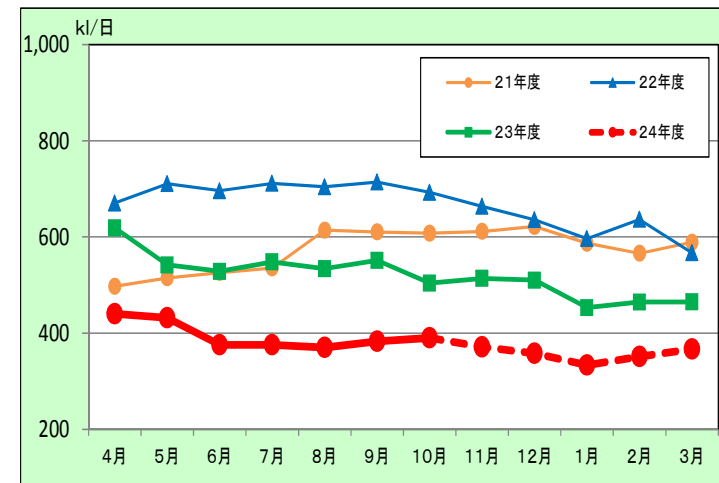
グラフ2-1：牛乳類（牛乳・加工乳・成分調整牛乳・乳飲料）の生産量（日均量）



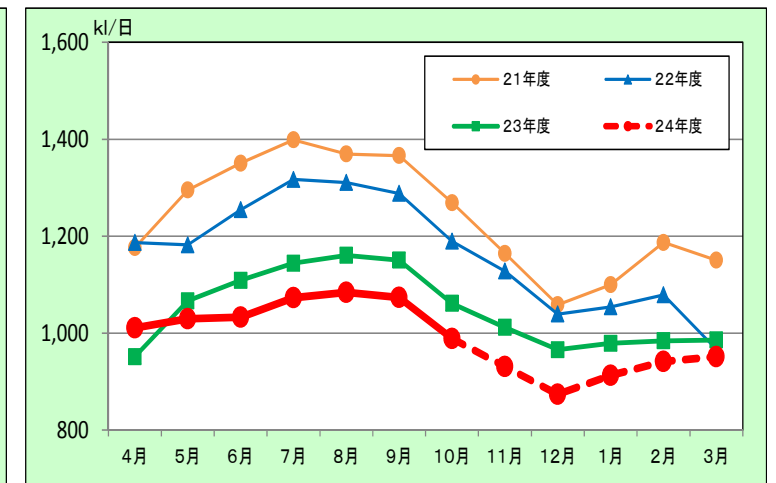
グラフ2-2：牛乳の生産量（日均量）



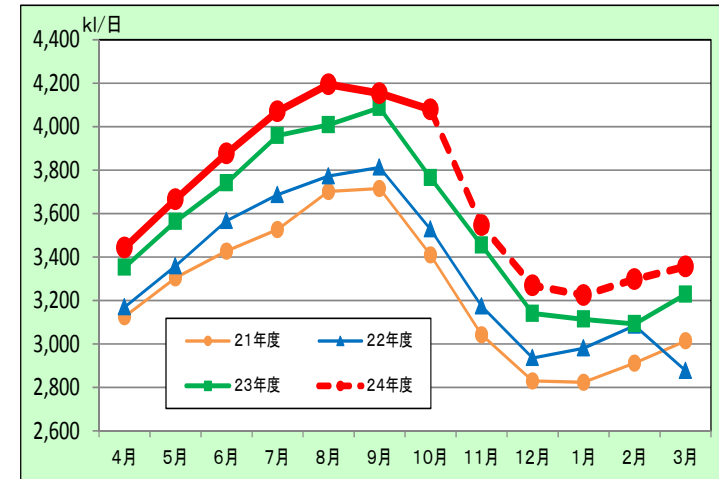
グラフ2-3：加工乳の生産量（日均量）



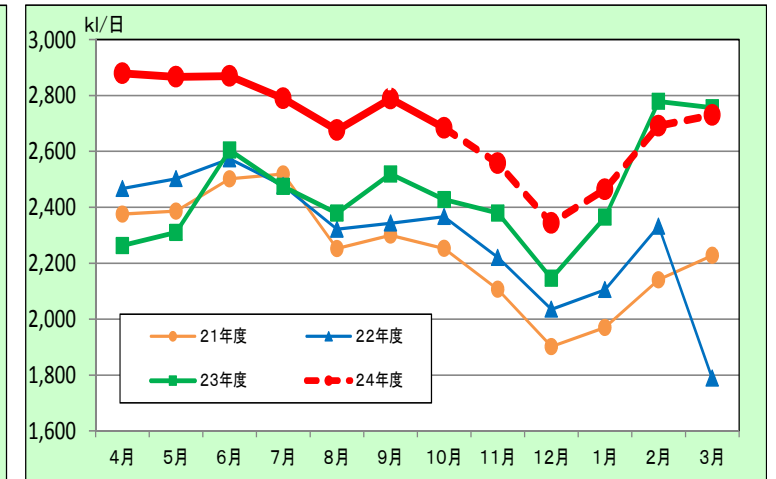
グラフ2-4：成分調整牛乳の生産量（日均量）



グラフ2-5：乳飲料の生産量（日均量）



グラフ2-6：はっ酵乳の生産量（日均量）



### 3. 用途別処理量の動向

#### 【用途別処理量予測の前提】

- ・生乳供給量は、生乳生産量から自家消費量を差し引いて算出(自家消費量は、各地域の直近までの動向を踏まえ設定)。
- ・牛乳等向処理量は、牛乳、加工乳、成分調整牛乳、乳飲料、はっ酵乳の予測生産量を基に、生乳使用率、比重(1.032)及び歩留まり(99.5%)を勘案して算出。
- ・乳製品向処理量は、生乳供給量と牛乳等向処理量の差。

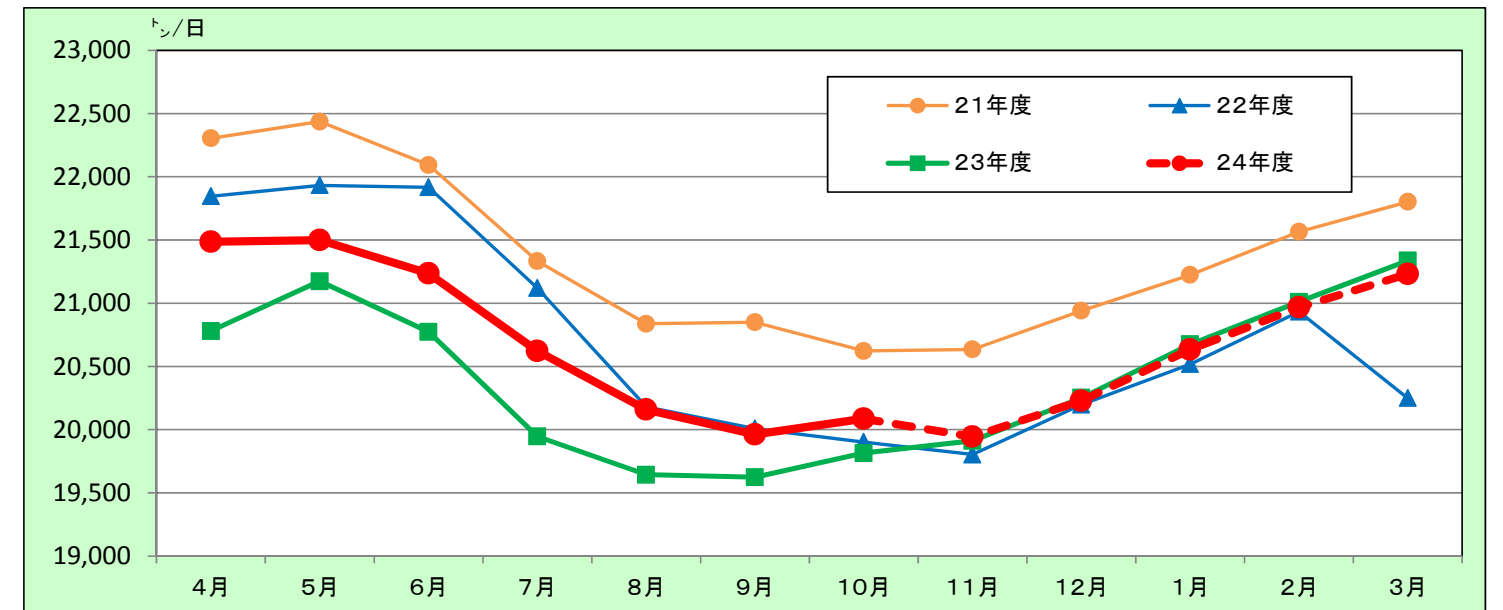
表3：平成24年度 生乳供給量及び用途別処理量（見通し）

	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		牛乳等向		乳製品向	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
4月	649	103.3%	5	89.6%	645	103.4%	329	98.0%	316	109.7%
5月	671	101.4%	5	89.1%	667	101.5%	351	97.8%	316	106.0%
6月	642	102.1%	5	92.5%	637	102.2%	351	99.9%	286	105.3%
7月	644	103.3%	5	89.1%	639	103.4%	348	97.3%	291	111.8%
8月	630	102.5%	5	87.5%	625	102.6%	332	98.1%	293	108.2%
9月	604	101.6%	5	84.8%	599	101.7%	361	100.5%	238	103.7%
10月	628	101.3%	5	88.4%	623	101.4%	357	101.3%	266	101.5%
11月	603	100.1%	5	96.1%	598	100.2%	334	99.2%	264	101.4%
12月	632	99.8%	5	91.7%	627	99.9%	314	98.9%	313	100.9%
1月	644	99.8%	5	97.9%	640	99.8%	322	99.0%	318	100.6%
2月	592	96.3%	4	93.9%	587	96.4%	308	95.2%	279	97.6%
3月	663	99.5%	5	98.3%	658	99.5%	323	98.9%	335	100.1%
第1四半期	1,963	102.3%	15	90.4%	1,948	102.4%	1,031	98.6%	917	107.0%
第2四半期	1,878	102.5%	15	87.1%	1,863	102.6%	1,041	98.6%	822	108.1%
第3四半期	1,863	100.4%	15	92.0%	1,848	100.5%	1,004	99.9%	844	101.2%
第4四半期	1,899	98.6%	14	96.7%	1,885	98.6%	953	97.7%	932	99.5%
上期	3,841	102.4%	29	88.7%	3,811	102.5%	2,072	98.6%	1,739	107.5%
下期	3,762	99.5%	29	94.2%	3,733	99.5%	1,958	98.8%	1,775	100.3%
年度計	7,602	100.9%	58	91.4%	7,544	101.0%	4,030	98.7%	3,515	103.8%
間年修正後										
年度計	7,602	101.2%	58	91.6%	7,544	101.3%	4,030	99.0%	3,515	104.1%

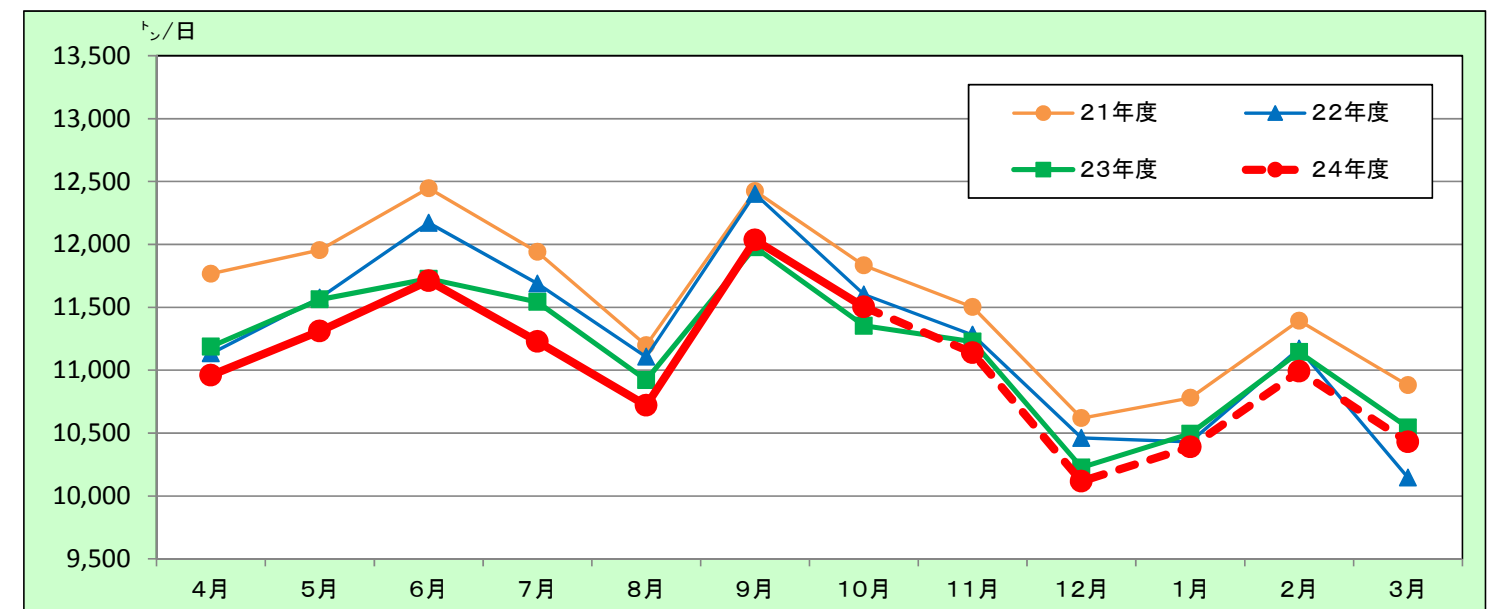
#### 【用途別処理量の見通し】

10月までの実績においては、生乳供給量が前年度を上回った一方、牛乳等向処理量は比較的好調だったものの前年度を下回って推移したことから、乳製品向処理量は前年度を上回る水準で推移した。今後は、生乳供給量が前年度を下回ると見込まれるものの、乳製品向処理量は引き続き前年度をやや上回るか同程度の水準で推移するものと見込まれる。

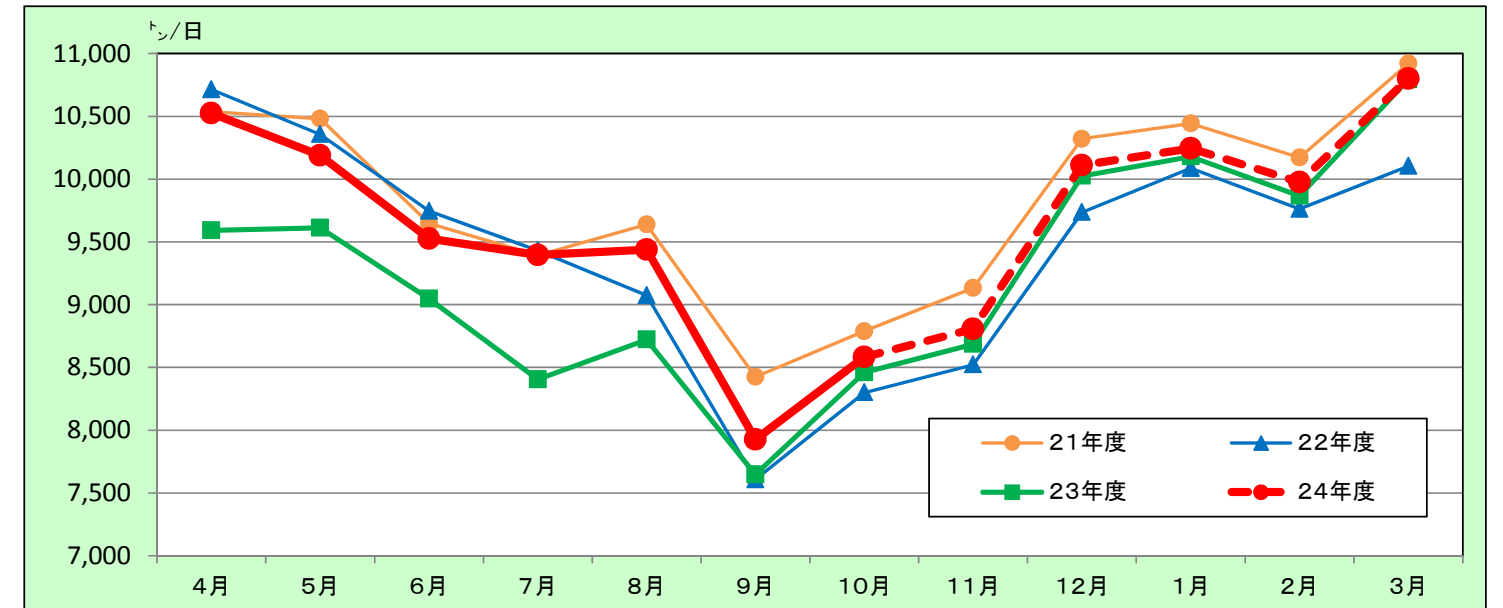
グラフ3-1：生乳供給量（日均量）



グラフ3-2：牛乳等向生乳処理量（日均量）



グラフ3-3：乳製品等向生乳処理量（日均量）





#### 4. 都府県の生乳需給の動向

##### 【都府県生乳需給予測の前提】

- ・「特定乳製品(脱脂粉乳・バター等)向処理量」は、「過不足(A-B-C)」+「移入量」-「移出量」で算出。
- ・「移入量」は、下記2点の基本的考え方にに基づき設定。
  - ① 都府県で製造する北海道ブランド牛乳のために、必要な移入量は必ず発生するものとして設定。
  - ② 生乳需給上、ある程度の特定乳製品向処理量は必ず発生するものとして設定。

表4：平成24年度 都府県の生乳需給（見通し）

	生乳供給量		牛乳等向処理量		その他乳製品向処理量		過不足 A-B-C	移入量 (道外移出量)		移出量	特定乳製品向処理量	
	A	前年比	B	前年比	C	前年比		前年比	前年比		前年比	
	4月	322	106.3%	284	96.8%	16		113.8%	22		20	76.1%
5月	329	101.9%	305	97.2%	14	97.7%	11	22	77.6%	0	32	138.0%
6月	308	103.4%	305	99.6%	14	105.5%	-11	29	81.1%		18	129.0%
7月	304	104.5%	301	97.5%	15	111.7%	-12	32	74.0%		20	164.1%
8月	294	102.7%	285	98.9%	16	118.6%	-8	31	90.8%		23	129.4%
9月	283	101.7%	313	100.6%	14	102.0%	-44	51	95.6%		7	99.2%
10月	296	100.5%	309	101.6%	16	104.7%	-29	40	104.8%		11	83.1%
11月	287	99.2%	289	99.4%	17	106.9%	-18	33	111.4%		15	114.3%
12月	301	98.7%	270	99.0%	18	106.8%	13	21	99.3%		34	92.5%
1月	307	98.5%	280	99.0%	15	106.9%	12	21	96.2%	0	33	90.0%
2月	285	95.4%	267	95.4%	14	101.9%	4	19	88.7%		23	86.3%
3月	322	98.1%	280	99.2%	17	106.9%	25	18	95.7%		43	88.6%
第1四半期	959	103.8%	894	97.8%	44	105.5%	21	71	78.5%	0	92	155.9%
第2四半期	881	103.0%	900	99.0%	46	110.6%	-64	114	87.1%		50	135.0%
第3四半期	885	99.4%	869	100.1%	51	106.2%	-34	94	105.7%		60	94.8%
第4四半期	915	97.4%	827	97.9%	47	105.3%	41	58	93.4%	0	99	88.5%
上期	1,840	103.4%	1,793	98.4%	90	108.0%	-43	186	83.6%	0	142	147.8%
下期	1,800	98.4%	1,696	99.0%	98	105.8%	6	152	100.6%	0	159	90.8%
年度計	3,640	100.9%	3,489	98.7%	188	106.8%	-37	338	90.5%	0	301	111.0%

##### 【都府県の生乳需給の見通し】

今後、都府県における生乳供給量は前年度をやや下回って推移すると見込まれるものの、牛乳等向処理量も前年度をやや下回って推移すると見込まれることから、北海道からの生乳移入の必要量も、同様に前年度をやや下回る程度の水準で推移するものと見込まれる。

また、都府県の特定乳製品向処理量については、その他乳製品向処理量が引き続き堅調と見込まれることもあり、今後は前年度を下回って推移するものと見込まれる。

#### 5. 特定乳製品需給の動向

##### 【特定乳製品(脱脂粉乳・バター等)需給予測の前提】

- ・特定乳製品向処理見込数量は、乳製品向処理量からその他乳製品(生クリーム等・チーズ)向処理見込数量を差し引いて算出。
- ・脱脂粉乳・バターの生産量は、特定乳製品向処理見込数量に製造係数(直近の動向等を反映した数値)を乗じて算出。
- ・脱脂粉乳・バターの消費量は、過去の実績データの動向パターンに基づく、価格や代替関係にある乳製品の処理見込数量等を変数に組み込んだ予測モデル(ARIMAモデル)による推計値を基本に算出。
- ・乳製品の在庫月数は、当該月の在庫量を前年度の一ヶ月平均の消費量で割ることで算出している。

表5：平成24年度 脱脂粉乳の需給（見通し）

	生産量		輸入 売渡し B	消費量		過不足 A+B-C	月末在庫量		
	A	前年比		C	前年比		月数		前年比
	4月	13.3		106.7%			12.7	98.3%	0.5
5月	12.6	99.1%		12.5	98.8%	0.1	48.2	4.0	82.9%
6月	10.4	98.5%		11.5	81.8%	-1.1	47.1	3.9	86.1%
7月	10.4	119.8%		12.6	96.7%	-2.2	44.9	3.7	89.2%
8月	10.6	113.0%		12.4	97.9%	-1.7	43.2	3.5	91.6%
9月	7.7	97.8%		11.1	92.1%	-3.4	39.7	3.3	92.6%
10月	9.3	97.0%		12.3	102.3%	-3.0	36.7	3.0	90.8%
11月	9.5	91.5%		11.3	97.1%	-1.8	34.8	2.9	89.1%
12月	13.4	93.6%		11.8	102.6%	1.5	36.3	3.0	86.9%
1月	13.7	97.4%		10.1	101.1%	3.6	40.0	3.3	87.0%
2月	10.8	95.7%		10.4	96.7%	0.4	40.4	3.3	86.9%
3月	13.5	98.9%		12.5	99.8%	1.1	41.4	3.4	87.0%
第1四半期	36.2	101.6%		36.7	92.6%	-0.5	47.1	3.9	86.1%
第2四半期	28.8	110.7%		36.1	95.6%	-7.4	39.7	3.3	92.6%
第3四半期	32.1	93.9%		35.5	100.7%	-3.4	36.3	3.0	86.9%
第4四半期	38.0	97.4%		32.9	99.2%	5.1	41.4	3.4	87.0%
上期	65.0	105.4%		72.9	94.1%	-7.9	39.7	3.3	92.6%
下期	70.2	95.8%		68.5	99.9%	1.7	41.4	3.4	87.0%
年度計	135.2	100.2%		141.4	96.8%	-6.2	41.4	3.4	87.0%

グラフ5-1：脱脂粉乳の消費量及び在庫量（四半期毎）

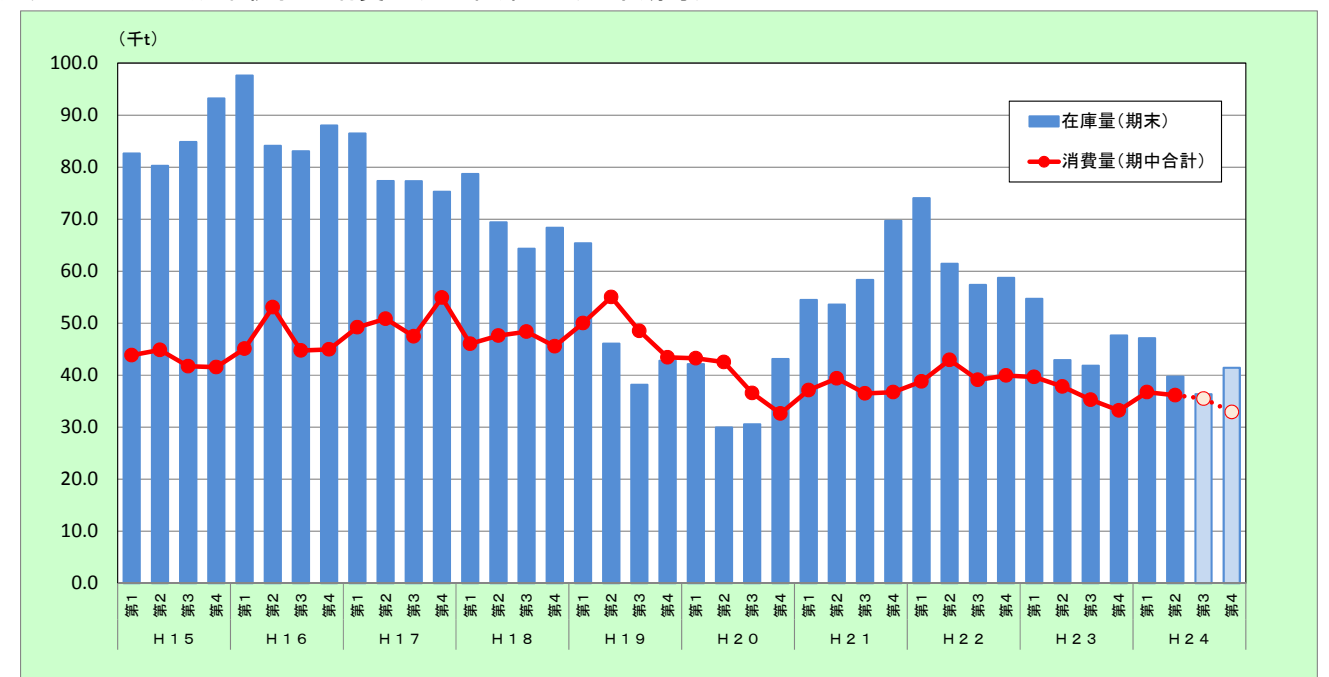
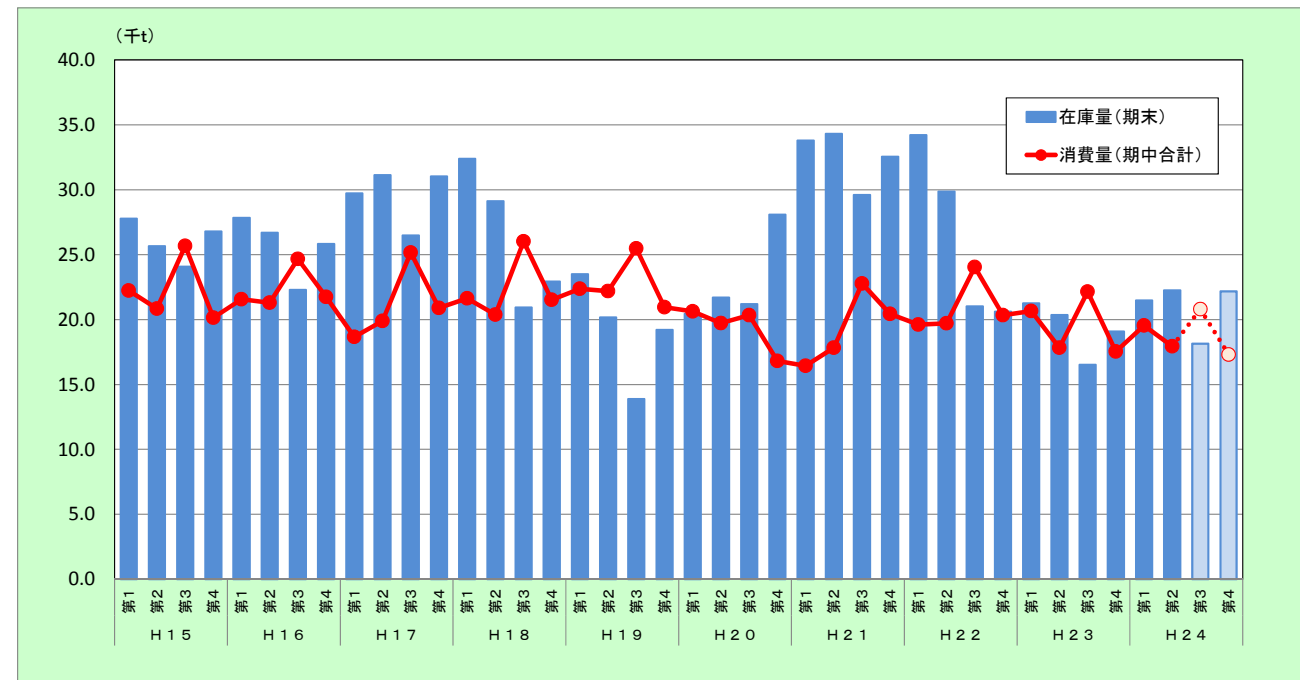


表6：平成24年度 バターの需給（見通し）

(千トン)

	生産量		輸入 売渡し	消費量		過不足 A+B-C	月末在庫量		
	A	前年比		C	前年比		月数	前年比	
4月	6.7	119.1%		6.4	92.1%	0.4	19.4	3.0	100.5%
5月	6.5	110.7%	1.3	6.3	93.5%	1.4	20.9	3.2	100.7%
6月	5.5	110.9%	1.9	6.8	98.1%	0.6	21.5	3.3	101.1%
7月	5.4	126.3%	0.7	6.2	84.3%	-0.0	21.5	3.3	102.5%
8月	5.6	124.8%	0.9	6.0	95.0%	0.6	22.0	3.4	105.1%
9月	3.7	107.0%	2.3	5.8	78.1%	0.2	22.3	3.4	109.4%
10月	4.3	103.1%	0.2	5.6	80.9%	-1.0	21.2	3.3	107.8%
11月	4.2	99.7%	2.1	7.3	97.9%	-1.0	20.2	3.1	108.8%
12月	6.0	102.3%		8.0	101.7%	-2.1	18.1	2.8	109.9%
1月	7.4	106.0%		4.5	98.1%	2.9	21.1	3.2	111.3%
2月	6.0	104.3%		5.7	97.5%	0.3	21.4	3.3	113.4%
3月	8.0	107.7%		7.2	100.1%	0.8	22.2	3.4	116.2%
第1四半期	18.8	113.6%	3.2	19.5	94.6%	2.4	21.5	3.3	101.1%
第2四半期	14.7	120.3%	4.0	17.9	100.6%	0.8	22.3	3.4	109.4%
第3四半期	14.4	101.7%	2.3	20.8	94.0%	-4.1	18.1	2.8	109.9%
第4四半期	21.4	106.2%		17.3	98.7%	4.0	22.2	3.4	116.2%
上期	33.5	116.5%	7.2	37.5	97.4%	3.2	22.3	3.4	109.4%
下期	35.8	104.3%	2.3	38.1	96.1%	-0.1	22.2	3.4	116.2%
年度計	69.3	109.9%	9.4	75.6	96.7%	3.1	22.2	3.4	116.2%

グラフ6-1：バターの消費量及び在庫量（四半期毎）



【特定乳製品（脱脂粉乳・バター）需給の見通し】

脱脂粉乳については、24年度末における在庫量は41.4千トン（3.4ヶ月分）、前年比87.0%と、依然、前年度を下回る水準となることを見込まれる。

バターについては、7.4千トンのカレントアクセス輸入分に加え、2千トンの追加輸入も実施されたことから、24年度末における在庫量は、22.2千トン（3.4ヶ月分）、前年比116.2%と、前年度を上回る水準となるものと見込まれる。

6. 当面する課題と対応について

(1) 牛乳類の不需用期における的確な対応

現時点の需給状況を踏まえると、都府県における特定乳製品向処理量は、今後は前年度をやや下回る程度の水準で推移するものと見込まれる。しかしながら、北海道の生乳生産が比較的堅調であることや、都府県では乳製品工場の一部閉鎖等によって乳製品製造の処理可能量が以前より減少していることから、年末年始や春休み（学乳休止期）等の特定乳製品向処理が集中する時期においては、これまでと同様、もしくはこれまで以上に、需給の僅かな変動や乳製品工場の稼働状況等によって想定外の混乱が生じる恐れがある。したがって、酪農乳業関係者は、日々の需給動向や加工向処理の発生状況等の情報共有化に努めるとともに、短期間に処理が集中する年末年始及び長期での対応が求められる春休み時期の的確な配乳計画や処理計画を策定していく必要がある。

(2) 牛乳乳製品の的確な需給調整・対策の検討

生乳生産は、24年度計では前年度を上回ると見込まれるものの、24年度下期では、都府県で減少傾向での推移が見込まれ、全国計でも前年度を下回って推移するものと見込まれる。

牛乳等の飲用需要は、年度計では前年比99%程度と、今後もやや減少傾向での推移が見込まれる。

脱脂粉乳・バターについては、需給面で23年度ほどの不足感は無いにも関わらず、消費量は依然減少傾向での推移を続けている。24年度計では、脱脂粉乳・バターともに前年比96~97%程度の消費量と見込まれるが、供給面での制約を受けた結果も反映されていることから、今後、供給の安定化が図られれば、本見込以上に消費量が伸びることも期待される。

こうした状況を踏まえると、今後の酪農乳業の健全な発展のためには、縮小均衡を容認するのではなく、生乳生産基盤の維持・強化及び牛乳乳製品の消費を総合的・複合的に高めていく実効性のある方策について、業界全体で検討する必要がある。